

BODY WORK & CONTEMPORARY DANCE & CONTACT IMPROVISATION WORKSHOP

Navigated By Noriko Kato ; independent dance artist+ Dance-tect

2017年 1月~3月 at ヒロロスクエア

ボディ・ワーク & コンテンポラリー・ダンス & コンタクト・インプロビゼーション ワークショップ

ナビゲーター：加藤 範子 インディペンデント・ダンス・アーティスト+Dance-tect 主宰

コンテンポラリー・ダンス クラス：（初心者～経験者まで誰でも参加可）

スキナー・リリース・テクニック（ダンス技術を高めるだけでなく、生命力や自己治癒力を引き出し高める身体技法）を基礎にして、自分のカラダの構造に意識をむけていくことからはじめ、余分な緊張から自由になることに加えて動きの可能性を広げていきます。そしてイメージ、声、コトバや音楽や、動きの物理的な法則を使って動いたりしながら、動きの技術や創造性を高めていきます。

日時：1月29日（日）、2月5日（日）、3月19日（日）、3月26日（日）

14：10～16：00 場所：ヒロロスクエア多世代交流室1（HIRORO 3階）

料金（1クラス）：一般¥2000/中学生以上の学生¥1000/親子ペア（小学生以下）¥2500 定員：10名程度（要予約）



親子コンタクト・ダンス クラス：（3歳～小学生と大人の初心者）



このクラスは、コンタクト・インプロビゼーション（1972年にスティーブ・パクストンによって考案された即興形式）を中心に行います。親子やグループでの対話を楽しんだり、カラダのふれ合いから生まれる自然な動きを感じたりしながら親子の繋がりを深めていきます。そして五感を使ったさまざまな体験をとおして、創造性・感性を育てていきます。

日時：1月29日（日）、2月5日（日）、3月19日（日）、3月26日（日）

13：05～13：50 場所：ヒロロスクエア多世代交流室1（HIRORO 3階）

料金（1クラス）：一般¥800/子ども3歳以上～小学生¥700 定員：10名程度（要予約）

コンタクト・インプロビゼーション クラス/オープン・ジャム：（初心者～経験者/年齢に関係なく誰でも参加可）



コンタクト・インプロビゼーションの基礎を学びながら、相手とのふれ合いや体重のやりとりから生まれる動きの流れを感じていきます。その動きを連続させていくなかで自分のカラダ、相手のカラダを聞きながら、動きをとおしてコミュニケーションをしていきます。**オープン・ジャム**ではコンタクト・インプロビゼーションを使って実際に動いていきます。演奏者の方の即興演奏によるジャム参加も歓迎です。

日時：1月29日（日）、2月5日（日）、3月19日（日）、3月26日（日）

コンタクト クラス16：15～17：00/オープン・ジャム：17：00～18：00

場所：ヒロロスクエア多世代交流室1（HIRORO 3階）

料金（1クラス）：一般¥1000/中学生以上の学生¥700/親子ペア（幼児～小学生）¥1500 定員：10名程度（要予約）

日時：2月12日（日）、2月26日（日）、3月5日（日）

コンタクト クラス17：00～18：30/オープン・ジャム：18：30～20：00

場所：ヒロロスクエア多世代交流室1（HIRORO 3階）*3月5日のみ多世代交流室2

料金（1クラス）：一般¥1500/中学生以上の学生¥1000/親子ペア（幼児～小学生）¥2000 定員：10名程度（要予約）

オープン・ジャム参加料金：一律¥500（踊る演奏するなどに関わらず）

*** 予約/申し込み・お問い合わせ ***

Mail ; dancetect@☆gmail.com（☆を外してください） Tel; 090-8258-9922（代表：加藤） HP ; www.norikokato.com
備考；クラス7日前のご予約の方は¥200 割引いたします（キャンセル不可）。また3クラス以上ご予約の方は割引いたしますので事前にお申し込みください。また10名以上のグループでお申し込みの場合は時間指定、団体割引料金もごさいますのでお気軽にお問い合わせください。

BODY WORK & CONTEMPORARY DANCE & CONTACT IMPROVISATION WORKSHOP

Navigated By Noriko Kato ; independent dance artist+ Dance-tect

2017年 1月～3月 ヒロロスクエア

ボディ・ワーク & コンテンポラリー・ダンス & コンタクト・インプロビゼーション ワークショップ

ナビゲーター：加藤 範子 インディペンデント・ダンス・アーティスト+Dance-tect 主宰



弘前市出身。弘前を中心に国内外で様々なアーティストとの公演活動の他、舞踊から思考する身体の研究など多角的にダンス活動をする。1998-1999年ラバンセンター・ロンドン留学(PDDS取得)。

日本体育大学大学院体育科学修士。

2006-2015年慶応義塾大学、神奈川大学、日本体育大学にて非常勤講師として勤務。

2003-2005年までドイツ、ケルンに滞在を機にインディペンデント活動を始動。

2005年よりDance-tect主宰。2006年A l'abodarge 『Chaching The Whale』に参加、バンコク/マニラ/京都/東京にて公演。

2007年「写真0年 沖縄」展の関連イベント/沖縄県立美術館のオープニングにて作品発表。

2008年フィンランド出身のダンスアーティスト、サリ・パルムグレンのダンス・ドキュメンタリー映画『Connective Patern』(2015初演)に出演。

2009年国際芸術センター青森共催公演『痕跡と忘却の波紋』主催、水上ステージにて公演。

2011年よりEnsemble ALAZARTに参加、ストックホルム、バルセロナ(2015)での公演の他、フィンランドにてサリ・パルムグレンとビジュアル・アーティストのシャーロット・マクゴワン=グリフィンと『Bright Tapestry』滞在制作。

同年よりイタリア、サレルノ出身の精神科医でボーダーライン・ダンス・カンパニー主宰のクラウディオ・マランゴンの招聘公演、日本|イタリア「対話」を機にイタリアと弘前/東京にて共同制作公演を行う。

2014年イタリア・カナダ・日本共同公演『境界を超えて』企画制作出演。

2016年スウェーデンのバスクラリネット奏者クリスタ・ボディエンとバルセロナ出身のビジュアル・アーティストのヨランダ・アロンゾ・ボディエンとの共同制作『宵の味わい』を企画公演出演。

その他、2016年ピナ・バウシュの初期メンバーで主要ダンサーとして活躍してきた、ジョー・アン・エンディコットの著作『さよならピナ、ピナ バイバイ』を叢文社より翻訳出版。

共著；加藤範子「身体という盲点と出会うために」、井上邦子・松浪稔・竹村匡弥・瀧元誠樹編著『スポーツ学の射程 — 「身体」のリアリティへ』所収黎明書房2015、加藤範子「舞踊する身体の可能性」、三井悦子編著『からだ論への扉をひらく』所収叢文社2006。

HP : www.norikokato.com